「常総・宇都宮東部連絡道路」
～野高谷立体の開通・真岡南バイパスの４車線化～

栃木県　県土整備部　道路整備課

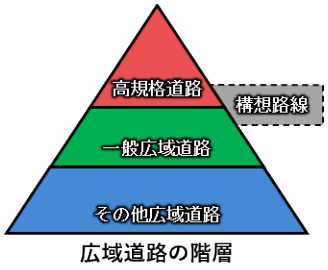
1. はじめに

「常総・宇都宮東部連絡道路」は、茨城県つくばみらい市（常磐自動車道谷和原 IC）と栃木県矢板市（東北縦貫自動車道矢板 IC）を結ぶ高規格道路として計画されている延長約 100km の道路（栃木県内約 50km）であり、北関東自動車道との連携を図りながら、茨城県西部と栃木県東部を縦断し広域道路ネットワークを形成する重要な幹線道路です。

本路線は、地域間交流の促進、物流の効率化など、多面的な役割を担っておりますが、暫定２車線での供用箇所があるなど、ネットワークとして十分な機能を発揮できていない状況であり、現在も段階的な整備が進められています。

近年では、「野高谷立体」の開通及び「真岡南バイパス」の４車線化により、交通の円滑化や沿線地域の利便性向上が大きく期待されています。

本稿では、近年完成した「野高谷立体」の開通及び「真岡南バイパス」の４車線化を中心に事業内容および整備効果についてご紹介します。



広域道路の階層



図－１　常総・宇都宮東部連絡道路位置図

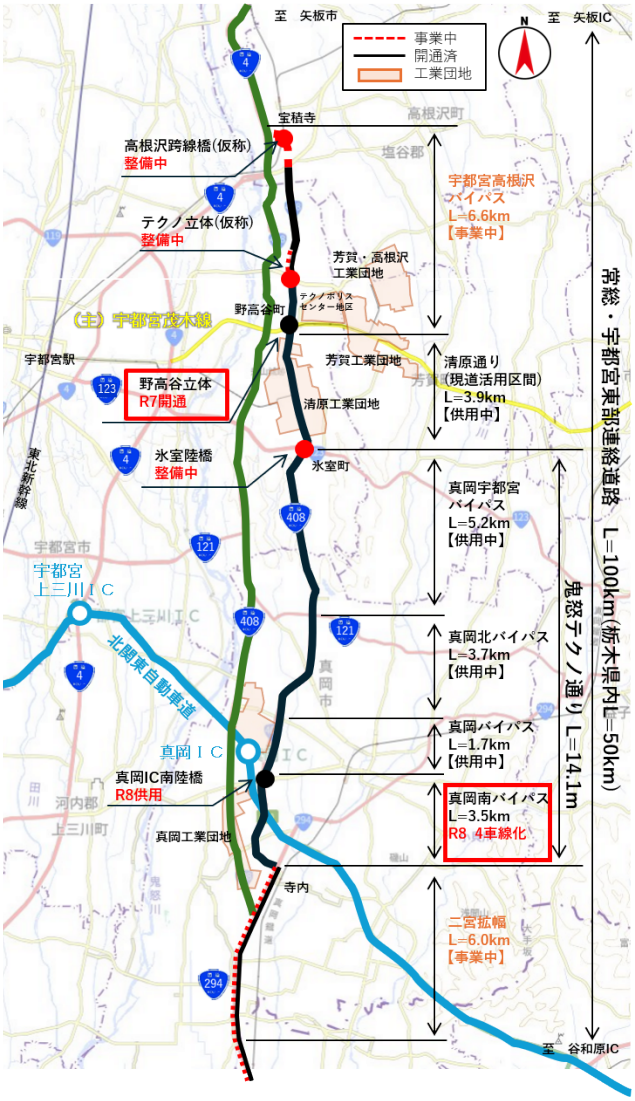
2．常総・宇都宮東部連絡道路の重点整備区間

(1) 宇都宮高根沢バイパス

宇都宮高根沢バイパスは主要地方道宇都宮茂木線交差部（宇都宮市野高谷町地内）から高根沢町宝積寺地内までの 6.6km の区間です。この路線は、清原工業団地を中心とする工業団地群から一般国道 4 号を経由して東北縦貫自動車道矢板 IC にアクセスする物流の大動脈となっています。現在、本区間については、地域高規格道路の整備区間に指定され、整備を行っており、一部区間について供用しているほか、野高谷立体が令和 7 年 1 月 30 日に開通しています。

(2) 鬼怒テクノ通り

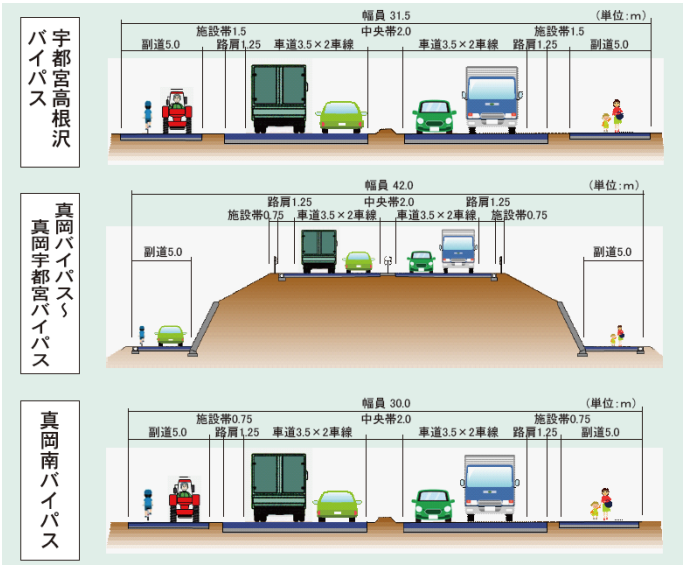
鬼怒テクノ通りは、一般国道 294 号交差部（真岡市寺内地内）を起点とし一般国道 123 号交差部（宇都宮市氷室町地内）を終点とする 14.1km の区間です。沿線には、工業団地が集積し、本県の産業活動の一大拠点となっています。これらと北関東自動車道とを繋ぐことで、本県の活力を維持しさらなる飛躍を遂げるため、物流の大動脈となる鬼怒テクノ通りの整備がますます不可欠になっています。そのため、一般国道 294 号から内陸最大規模の清原工業団地を結ぶ 14.1km が、地域高規格道路の整備区間に指定され、順次整備を行い、真岡南バイパスの 4 車線化が令和 8 年 7 月 11 日に完成しました。



図－２　常総・宇都宮東部連絡道路



写真－１　清原工業団地



図－３　標準横断図

3．野高谷立体

(1) 事業概要

野高谷立体は、高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する一般国道 408 号野高谷工区（L=1.5km）において、主要地方道宇都宮茂木線との交差点の立体化工事を実施したものです。

立体化により、主要渋滞箇所となっている野高谷ランプ交差点の渋滞が緩和される見込みであり、円滑な通行の確保が期待されます。



写真－２　野高谷立体

(2) 供用開始

令和 7（2025）年 1 月 30 日（木）

(3) 計画概要

全体延長：1,500m

道路幅員：18.5m（車線 3.5m × 4 車線）

事業期間：平成 21 年～令和 6 年度

全体事業費：約 51 億円

(4) 主要構造物①

橋梁名称：野高谷陸橋

橋長：125.0m

上部工形式：鋼 3 径間連続非合成細幅箱桁橋

(5) 主要構造物②

橋梁名称：ゆいの杜陸橋

橋長：50.0m

上部工形式：単純 PC ポステン箱桁橋

(6) 整備効果

交差点の立体化により、交通渋滞が緩和しました。



写真－３　整備前



写真－４　整備後

(7) イベントの実施

建設業の担い手不足が深刻化する中、身近なインフラである道路施設に親しみを持ってもらうため、地元小学生約 120 名を対象に、舗装前の橋面をキャンバスにして自由に絵を描いてもらう「アートイベント」を開催しました。また、地元大学生等を対象とした現場見学会等を計 16 回開催し、本事業の PR や建設業の魅力を知ってもらう機会を設けました。さらに開通式では、地元工業高校生が製作した乾電池 1000 本で走るフォーミュラカーによる通り初めを行い、本事業の完成を広く PR するとともに、高校生の活動の周知にも繋げるなど、教育現場との連携を図りました。



写真－５　小学生を対象としたアートイベント



写真－６　橋面にお絵描きする小学生



写真－７　地元大学生への現場見学会



写真－８　知事によるフォーミュラカー通り初め

4．真岡南バイパス

(1) 事業概要

真岡南バイパスは、真岡バイパス及び真岡北バイパス等と連携し、高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成するバイパス整備事業です。本バイパスの整備により、「ものづくり県」である本県の成長をけん引する鬼怒川左岸地域における南北交通軸が形成され、本県の広域ネットワーク形成の促進や高速道路 IC へのアクセス強化が期待されます。また、真岡市内の道路では慢性的な交通渋滞が発生しており、それらの交通を適切に分散させる効果も期待されます。



図－４　位置図



写真－９　真岡南バイパス

(2) 供用開始

令和８（2026）年７月 11 日（土）

(3) 計画概要

全体延長：3,500 m

道路幅員：18.5m（車線 3.5m × 4 車線）

事業期間：平成 26 年～令和８年度

全体事業費：約 140 億円

(4) 主要構造物

橋梁名称：真岡 I.C 南陸橋

橋長：61.0m

上部工形式：単純非合成曲線細幅箱桁

(5) 整備効果

ア　鬼怒川左岸地域の産業を支援

沿線の工業団地から真岡 IC への所要時間が約 5 分短縮されます。

※整備無は実測、整備有は推定による



図－5　沿線の工業団地から真岡 IC への所要時間の短縮

イ　円滑な道路交通の確保

本バイパスの整備により、周辺交通の分散を図ることで、慢性的な交通渋滞が解消され、周辺道路を含めた円滑な道路交通が確保されます。

交通円滑化による社会的な便益は、供用後 50 年間で約 262 億円になるものと推計されます。

ウ　災害に強い道路ネットワークの強化

第 1 次緊急輸送道路である現道の国道 408 号を補完し、緊急輸送道路ネットワークの代替性・多重性を確保することで、災害に強い道路ネットワークを強化します。

エ　沿道環境の改善

現道の交通がバイパスに転換することによって、渋滞緩和や走行性が向上し、二酸化炭素（CO_2）、窒素酸化物（NO_x）等の大気汚染物質の排出が軽減され、沿道環境の改善が図られます。



図－6　沿道環境の改善

5．おわりに

地域にお住まいの方々をはじめとする関係者の皆さまのご協力のおかげをもちまして、令和 7 年 1 月 30 日に野高谷立体を供用、令和 8 年 7 月 11 日に真岡南バイパスを 4 車線供用することができました。改めて、事業に関わられたすべての皆さまに厚く御礼申し上げます。

今後とも、宇都宮・高根沢バイパスならびに真岡宇都宮バイパスの早期完成に向けて、事業推進に努めて参ります。